

平成28年度第7回「知事と語ろう市町村ミーティング in 高島」

<開催日時> 平成28年11月24日(木)

<開催場所> 高島町文化ホールまほら「ホワイエ」

<参加者> 約120名

【開催テーマ】人が輝き 誇れるまちでありつづけるために

【質疑事項】

- 1 道の駅への食品加工施設の設置について
- 2 空き家問題について
- 3 乳がん治療者の専用入浴着着用の理解促進について
- 4 芸術振興のための作品展示・保管施設について
- 5 農業後継者不足について
- 6 やまがた百名山、やまがた緑環境税の用途について
- 7 米消費の減少、食生活の欧米化について
- 8 若者が元気になる施策について
- 9 知事の退職金について
- 10 再生可能エネルギーの推進による卒原発について
- 11 赤十字活動について

【テーマに関する質疑】

1 道の駅への食品加工施設の設置について

<意見者>

6次産業化に伴う加工施設を道の駅につくるときの県の支援の期間がいつまでなのかお聞きしたいと思います。

<知事>

道の駅は、県内外から観光客の方が集まる施設でありますので、そこに併設された農産物直売施設で農家の方々などが地元農産物を加工して販売していくというのは、付加価値を生み出す6次産業化の理想的な形の1つと考えております。

県では、農家の皆さんが少ない初期投資で6次産業に取り組んで、少しでも農業所得を上げていけるように、平成27年度に「元気な6次産業化応援プロジェクト事業」という補助事業を立ち上げまして、市町村やJAが農業者の皆さんが利用できる直売所や加工施設を整備することに対して支援しております。

これまでの支援事例として、朝日町で「道の駅あさひまち りんごの森」というものを作りました。そこに併設して、加工施設を整備して、農家の方がリンゴジュースやお菓子、総菜などの加工品を作って、道の駅で販売できる体制を構築しております。農業者の方からもお客さんからも大変好評だと聞いております。

御意見ありました道の駅への加工施設の整備につきましては、道の駅を設置している町と一緒に、どのような加工品を作る施設にするか、利用方法はどのようにするのかといっ

た施設整備や利用計画を検討していただいて、補助事業の活用を検討してみたいかと思っております。

なお、施設の内容や加工技術などについて分からないことがありましたら、ここ高島町には、置賜総合支庁の農業技術普及課がありますので、気軽に御相談いただければと思います。

<置賜総合支庁産業経済部長>

支援の期限につきまして、6次産業の支援は今年度の分は終わっております。今後、来年以降をどうするかにつきましては、新年度の予算編成の中で検討されることとなります。

2 空き家問題について

<意見者>

少子高齢化ということで、最近、若者2人暮らしの家が大変多いです。空き家もところどころに見受けられるんですけども、空き家について、今後よい利用ですとか、それから県としてのその空き家の把握などをされていたらお聞きしたいと思います。

ちょうど今日、うちの菩提寺さまのところで、狸がちょっちょつと、私のところに逃げてきたのですが、こんな町にも、狸が現れるような状況で、空き家がこういう動物の棲みかとなったらと思っております。

<知事>

町なかにも狸が出てきたということで。空き家になったら、そういうところに動物が入ります。

空き家は全国的に増えていまして、山形県だけのことではないんですけども、ただ山形県は雪国でありますから、非常に積もりますので、雪の重み、それから冬の間の雪下ろしなど、山形県においては、向き合わなければいけない課題だと思っております。

空き家の増加は、防犯上・防火上、住民の皆様の生活にさまざまな影響を及ぼすものがあります。またその地域の人口減少の現れでもありまして、地域の活力低下につながる大きな問題であると考えています。

県では、老朽化した倒壊の危険のある住宅の解体促進ということと、空き家の発生を抑制するための利活用促進、この両面からの取組みが必要だと考えております。

空き家対策を総合的に行うためには、市町村が「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づく「空家等対策計画」を策定することが重要だと考えております。しかしながら、県内で計画が策定されたのは、まだ2つの市と町にとどまっている状況であります。

県では、市町村の計画策定が進むように、今年中にモデル計画を市町村にお示しをして計画策定の参考にしていただくことを考えております。

空き家の利活用促進の取組みとしまして、「住宅リフォーム補助事業」を実施しております。高島町でも多くの方から御利用いただいております。昨年度から空き家のリフォームを補助の対象に追加しております。それから、空き家の品質を検査する「中古住宅診断」のモデル事業を創設して、空き家の利用促進の支援を行っております。

また今年度からは、空き家を子育て世帯向けの戸建ての賃貸住宅として活用するための検討を進めておまして、空き家を活用して子育て世帯が気兼ねなく子育てが行える

環境を整えていきたいと考えているところでございます。

<町長>

高島町においては、空き家の度合い、どのようなものか全町で調査をさせていただいているところであります。

利活用をできるものにつきましては、例えば、地域の方々が集まって、一人暮らし、あるいは高齢者の皆さんだけでなく、若い方もそこに一緒に集まって、その地域活性化、あるいはその絆を深めて、そういうものをやりましょう、取り組みましょうということで、もう今、和田の前の向こう側の地域でも利活用させていただいているところであります。大変多くの方々に集まっていただいて、その費用を負担いただきながら、絆を守っていることのことです。

利活用については、しっかりと検討していきたいと思えます。でも持ち主の方がこちらにおいでにならないという方もいて、大変苦労している部分が正直あります。

<知事>

家を建てておいたほうが税金が安いということがあったかと思えます。それは抜本的に解消しないと、空き家の問題が進んでいきません。基本的なところをやっていかなければいけないと思っているところです。

3 乳がん治療者の専用入浴着着用の理解促進について

<意見者>

宮城県の温泉施設のお風呂に入った時なんですけれども、大きなポスターが貼ってありまして、乳がんの患者さんが心置きなくといいますか、人の目を気にすることなく入浴できるようにということで、「入浴着」というのがあるんです。それを着用しての入浴に、皆さん御理解くださいという大きなポスターがありました。

山形県は温泉王国で、皆さんに来ていただきたいので、いろんな方が温泉を楽しんでいただけるように、入浴着を着用しても入浴できることを、山形県全体で取り組んでいただけたらと思えます。

<知事>

山形県は35市町村すべてに温泉がある温泉王国ですと、私はどこに行っても、海外に行っても宣伝しているところでございます。

平均寿命が伸びた日本でありますけれども、一生のうちで考えますと、2人に1人はがんにかかるおそれがあると言われております。

県では「健康やまがた安心プラン」というものをつくっております、「がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんと向き合い、がんになっても安心して暮らせる社会の実現」ということを基本的方向として定めております。がんの予防、早期発見、医療の提供、がん患者とその家族への相談支援などの施策を総合的に推進しております。

特に、治療と就労、働くこととの両立を図るために、治療をはじめ外見上の悩みや就労に関するワンストップ相談会を開催したり、治療による脱毛の悩みに対する支援として、他県に先駆けて医療用のウィッグ、かつらですね、ウィッグ購入費の助成を行っております。

す。がん患者の皆さんへの支援を拡充してきているところであります。これからもがんに対する社会全体の理解を深め、がん患者の皆様とその御家族の療養生活の質がより良いものとなるように、環境整備を図っていきたくと思っております。

御意見いただきました専用入浴着を着用しての入浴に関しましても、本県は温泉県でありますので、女性では罹患率が高い乳がんになっても、これまでどおり温泉を楽しんでいただけるように、ピンクリボン運動実行委員会をはじめ関係団体と協力しながら普及啓発を行い、皆さんの御理解を促進してまいります。

具体的には、県ではこれまで、乳がん治療者の専用入浴着着用の理解促進について、平成23年3月に啓発用ポスターを作成して、県内の全旅館、公衆浴場に配布し周知に努めてきたところでございます。

現在は、県のホームページに啓発用ポスターを掲載しておりまして、ダウンロードして使用していただけるようお願いをしているところです。

今後とも、正しい使い方をしている入浴着は、着用したまま入浴しても衛生上なんら問題がないということについて、機会を捉えて入浴施設関係者へ周知していきたくと思いません。

本日、御意見をいただきましたので、各保健所に対して改めて全入浴施設営業者に、乳がん治療者の専用入浴着着用理解促進について、周知を図るように指示してまいりたいと思います。

がんは早期発見して早期治療をすることが大事でありますので、忘れずに検診を受けて、県民の皆さんが元気で長生きしていただきたいと思っております。

4 芸術振興のための作品展示・保管施設について

<意見者>

県内の芸術と産業振興の関係で提案させていただきたいと思えます。

今、インバウンドということで、個人の観光客を呼び込もうといろいろされています。

山形県では自然環境については、いろいろなものがあると思えますが、文化的なものだと歴史的な背景が出てくるので、難しい点があると思えます。

山形県には東北芸術工科大学がありますし、山形県にすごい企業、すごい技術者がいるということでこの頃テレビで結構放映になっています。ただ、若手の芸術家や伝統工芸をなさっている方が、自立するというのはなかなか難しいと思えます。

県の役割として、そういう人たちを見い出して、支援するという姿勢が大事だと思えます。

もう1つは、県民の皆さん、それから日本全国、あるいは国外にも知らせて見ていただく施設が必要なのではないかと思えます。山形県は芸術関係の大学はあるんですが、そういう作品を展示する、県立美術館というものがありません。全国でも数少ない県立美術館がない県です。

伝統工芸、それから産業と連携してデザイン関係、現代美術関係、それらを保管展示収集することによって産業にも結びつき、かつ観光客も呼び込める、地域の文化レベルも高まることできると思えますので、まあお金もかかることですし、今すぐどうこうということではできないというのは重々承知していますが、提言させていただきたいと思えます。

<知事>

地域創生ということでありますけれども、文化、スポーツ、生活、大事なところだと思っております。

山形県には、県立美術館というのはないですけれども、本年3月に策定した「山形県文化振興プラン」におきまして、県民が優れた文化芸術に触れる機会の充実というのは大変重要で、山形美術館をはじめ、県内の主要な博物館・美術館と企画事業を共催で行うとともに、その支援を行って、県民に優れた文化芸術に触れる機会を提供することとしているところでございます。

山形美術館というのがございますけれども、これは、自らの力で美術館をつくりたいという、当時の文化芸術関係者の強い思いをもとに、官と民が連携して設立されたものであります。県としましては、県の総合美術展などの全県的な取組みや国内外の優れた美術展等への支援、さらには館内の改修などについて支援を行ってきたところでございます。

美術館というのは大事ですので、もう県立美術館と同じような思いをもって、県としてもいろいろな支援や助成を行っているところです。

今年度から、山形の未来を担う子どもたちが、優れた芸術文化に身近に触れ、楽しみながら理解を深める学びのプログラムの開発などの取組みについて新たな支援を行うなど、山形美術館が本県の中核的な美術館として期待される役割を十分に果たすことができるよう支援を行ってきています。

また、県民自らが取り組む美術など文化芸術活動の身近な発表とその鑑賞機会を提供する場として、山形美術館のほかに「山形県芸文美術館」の運営も支援しております。

この展示室の面積は千平米を超えておりまして、都道府県が設置する展示ギャラリーとしては最大級でございます。全国規模の展示会の開催を含め、県民の皆様から広く御活用いただいているところであります。

「山形県文化振興プラン」では、人口減少問題の克服や成長力の確保に向けた地方創生の動きを踏まえ、文化を通じた地域への愛着と誇りを醸成する取組みや、山形の優れた文化を観光や産業の振興、地域の活性化につなげる取組みなどを盛り込んでいます。

今後とも、このプランに沿って文化芸術の振興に資する事業を総合的かつ計画的に推進してまいります。

山形駅西口に、県民文化複合施設というものをつくる予定でございます。あそこも文化振興にかなり貢献するのではないかと考えているところです。

その施設は複合施設でありまして、コンサートとかがやれるだけではなくて、それはもちろん大きなスペースを占めておりますが、あと県のアンテナショップ的な機能を持たせて、県内のいろいろな特産物がそこに行けば見れる、買える、そして食べられるというものにしたいと思って、産直施設みたいなものを店内に併設して、またそういうものを食べるレストランみたいなものを併設して、常に賑わいのある複合施設にしたいと考えているところです。

劇団の開催ですとか、コンサートもありますけれども、毎日あるわけではございませんので、経営ということがとても大事だとも思っておりますので、そういう視点でしっかり進めてまいります。

<意見者>

私が言いたかったのは、芸術一般を展示するというだけでなく、産業と連担したものを考えていただきたいということです。と言うのは、産業振興と関連したものについては、景気の変動や産業の変遷によって、今まですごく儲かっていたのが急にだめになったとかあるんですが、地域でもともとあったもの、伝統産業であったり、あるいは文化的なものというのは、自分たちが考えて、自分たちがやってきているということで世界で1つのオンリーワンになり得ると伺っています。

絵画とか瀬戸物だとかそういうことでなくて、デザインだったり、あとは工芸的なものであったり。特に現代美術なんていうのは、ほかの県の美術館にも行ったことあるんですが、結構重要視していて、そういう産業と結びついた地域の人たちが世界に羽ばたくための1つのきっかけとして、収集したり話したりという役割のものがあるといいと思い提案させていただきました。

<知事>

伝統工芸産業など山形県にはものづくりがたくさんあります。産業との連携といいますか、そこを再構築して、後継者を作って、後継者を育ててもらって、それをつないでいかなきゃいけないというものもあるかと思います。いろいろ観光にも資することになりますので、御提案いただいたことを勉強させていただいて、取り組んでいきたいと思えます。

【その他の質疑】

5 農業後継者不足について

<意見者>

私は13年前に宮城県のほうからどうしてもお米が作りたくて、ここ高畠にまいりました。

新規就農者が集まってきているということなんですけれども、実感することは、新規就農者は確かに増えているかもしれないのですが、それが継続しているのかというと、経験5年の私が言うのは失礼なのですが、就農はしやすいですけれども、そのあとなかなか続かない。10年後、何人残っているのかというところを伺いたいと思えます。

私の周りでは、高畠に来た13年前とあんまり顔ぶれが変らなくて、当時50代の方は当然60代になっています。地域に関わらず、若い人がいなくて、高齢者ばかりになって、もうどうしようという話があります。これはもちろん町だけじゃなく、県全体の問題なのではないのかなと感じております。知事はどのようにお考えになられているのかお聞きしたいと思えます。

<知事>

農業は国民の、もちろん県民の、町民の命をつなぐ大事な産業だと思っております。

ですから私は農業を基盤産業と呼んでいるんです。基幹産業は工業で、工業のほうが出荷額がはるかに多いので基幹産業と呼びますけれど、農業は基盤産業、これがなければ命が維持できないですので、本県の重要な産業に位置付けておりまして力を入れています。

もちろん、米にも力を入れていますけれども、農業でしっかり稼げることに力を入れてきました。オーダーメイド型にチェンジした補助金を出したりとかもしてきております。

課題がたくさんあって、高齢化していったら、お米がだんだん安くなって、米づくりをす

る方にとっては収入がどんどん減っていくという状況があると思っています。そこが多分、目の前の大きな課題かなと思っています。

これをやれば100%大丈夫っていうことは、なかなか難しいかもしれませんが、ただ本県の農業というのは、東北6県で農業者の一人一人の所得がいちばん多いんです。それはお米の売れ行きもそうだし、農業生産性も工業よりも農業の、お米が高いんです。

ただ、これからのことを考えていくと、お米がどんどんと値段だけじゃなくて、それを必要とする人口が減っているということが全国的にあります。そういうときにどうするかということですが、100%以上は維持しながら、私は、県外、海外に米を輸出していくことが大きな方法だと思っています。人口減少は本当に大きな問題で、人口が減っていけば食べるものも少なくて済むようになるし、着るものも少なくて、買わないで済むようになる、やがて家も建てる数が少なくなる。車を買う数も減っていく。要するにどんどん社会活力が減少するということなので、とても大きな問題だと思います。

出合い、結婚、出産、子育て支援、教育支援ということもやっていくんですが、平行して経済を縮小させないという方向をしっかりとやって、輸出拡大ということと、観光交流を増やすということをやっていかなければいけないと強い思いを持っています。他県から、海外からお客さんに来てもらって、そして米を食べてもらって、できれば買ってもらう。このことは農産物も直結している問題であります。この2つのことにしっかり力を入れていきたいと思っています。

海外にトップセールスに行っているわけですけども、そういう背景もあるので、一生懸命やっているところです。

この間ハワイにつや姫の宣伝に行ってきました。ハワイには日本人が1日に5,000人行っているんだそうです。年間140万人、ハワイに行くんだそうです。だから和食文化が定着していて、お米を食べる。一人がお米を食べる量も、日本人とあまり変わらないところなんです。そういうところにはおいしいお米の需要もあるだろうということで宣伝に行きました。

政財界から200人来てくれまして、山形県人会が25人いまして、県人会の人がつや姫のおにぎりと、それから芋煮を作ってくれまして、その200人に振る舞ったんです、漬け物も一緒に。「おいしい、おいしい。」と大変好評で、「おいしいを超えている、英語で、おいしいを超えているってなんて言うんだ。」って、女性の方から質問されて、私も「んー。」って考えて「ほっぺが落ちそう。」って言ったんです。上手に通訳してもらいましたけれども、そんな場面もありました。

「つや姫が山形だ」っていうことは結構有名なんだよとあとから聞きました。「とんかつ銀座梅林」という、梅の林って書く「とんかつ梅林」っていうチェーン店があるんですが、そのワイキキ店で、つや姫を使いたいという申し込みがあったと聞いているところです。

山形県のおいしいものを食べてもらえるようにしていく。中国などでは富裕層がたくさんいるので、山形のおいしいものを中国ではもっとたくさん欲しがっているんですが、検疫とか、それから国と国とのいろんなことがあるので。早く動いていかないと困るんですけど。めげないでそこへ向けてしっかり売っていく、そして開けることがあるという、そのぐらいやっついていかないと山形県、日本も、将来がいろいろ心配になっていきますので、力を入れていきたいと思っています。

<意見者>

私も県外出身者として山形に住んで、こんなに素晴らしいところはないと思っていました、遊びに来た友だちも、「山形はあんまりいいイメージはなかったんだけど、来たらほんとにすごくいいところだった。」って言っていただけることが多いので、知事も発信されているということでしたので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

<知事>

ありがとうございます。13年お住みになって、ずうっとそのように思っていたいているということは、やっぱりここは素晴らしいところなんだと、皆さんもっと自信を持ちましょうよ。

<意見者>

高畠は最高だと私は思っています。

<知事>

皆さん一人一人がそういう思いを持つことが大事だと思っています。一人一人が営業マンになってもらって、高畠はいいところだ、高畠のつや姫は最高だと言っていくことで、それが何よりもPRになると思っています。

つや姫も、私一人でPRしたわけじゃなくて、県民のたくさんの方々が発信して実際に県外の人に送ったり、来た人に食べさせたりして、それでファンになってきたと私は思っているんです。

今、力強いお言葉を頂戴しました。何かありましたら、町にでも県にでも言っていたいて、いろんな施策がありますので、いろいろと協議を交わしていただければと思います。

今後ともここでしっかり取り組んでいただけるように、また、就農をした方が継続して取り組んでいけるようにするにはどうすればいいか併せてしっかり考えていきたいと思ひます。

6 やまがた百名山、やまがた緑環境税の使途について

<意見者>

単純な要望です。一つは、高畠町の山を百名山に選定していただきたくよろしくお願ひします。

もう一つは、今、山の整備を我々ボランティアでいろいろやっけていて、やまがた緑環境税の支援をいただいているんですけども、その補助金の使いみちをもっとゆるめていただきたいという要望です。

例えば散策路の草刈りを、1日8時間ぐらい、30人ぐらいでやっけていますが、お茶代も出せない内容なんです。道具を使ったりする助成、燃料とかそういうものだけなんです。

やっぱり山を整備するのは人間なんで、そのほうの使用も認めていただきたいという要望です。

汗水垂らして1日8時間で手弁当でやる。その肝心な山を整備するっていう意味では、使えるのではないのかなと思います。

<知事>

百名山については、担当の部長が、最初から100決めそうだったので、「それちょっと待って。まず半分ぐらいにして。」と。いろんな山が県内にはあるので、じっくりお話を聞きながら進めていったらいいんじゃないかと、私が水差して、まずは50を選んだんです。

それぞれ愛着の深い山があると思いますので、これから皆さんの話をお聞きしながら選定をしていければと思っています。

やまがた緑環境税の要望については、帰って環境エネルギー部に伝えたいと思います。検討させていただきます。

<司会>

御推薦の山はどの山ですか。

<意見者>

高島町で一番高い駒ヶ岳という山と、あと豪士山です。

<知事>

高島町の町民の皆さんにとっては駒ヶ岳っていうのは、皆さんが親しんでらっしゃる山なんでしょうね。決まるというわけではないんですけども、伝えていきたいと思っています。

7 米消費の減少、食生活の欧米化について

<意見者>

米づくりをしています。各県での地域ブランドの格差が出ている中、ますます今後米競争の激化の中、米消費の激減が今後の大きな課題になり、特に若い世代が欧米化の食生活になってきている現状を、日本食・お米中心の食事に戻していく意義が大きいと感じております。

私も米づくりに携わる一人として、食の健康の重要性を伝えていくことが大事だと日々試行錯誤の連続です。女性パワーで健康な山形、日本、世界に発信をと考えていますが、知事の御所見をお伺いしたくよろしく申し上げます。

<知事>

食料という観点からも、農業は重要な産業だと思っておりますし、また日本の文化だと思っています。和食という文化が世界遺産になったというのは、本当に一つの精神文化につながっているとも思っています。

これからの子どもたちを育てる食育ですね。8歳ぐらいまでの間の食育ってすごく大事だということがございます。またその地域だけじゃなくて、大都会に行って、食や消費の運動をやって、米作り、農業の素晴らしさをPRすることも大事なことだと思っています。

競争激化はそのとおりでありまして、毎年、多くの県が新しいお米を出しています。だから毎年出てくるのはとても多いんですが、その中でもつや姫は健闘していると思っています。実力のあるお米だと思っています。山形県の米づくりは、果物も全部そうなんですけれども、この風土、山が多い、水がきれい、空気もおいしい、寒暖の差があるこの環境

がおいしいものができる環境なんだろうなと思っています。山をきっちりと整備していくということで、森林（モリ）ノミクスを始めているんです。

競争は、PRが大事だと思っています。宣伝しないと。中にはPRだけで有名になるのがたまにあるんです。もう広告、宣伝が上手、コマーシャルが上手で。でも実力がなくていずれ下火になります。だから、実力とPRの両方が必要だと思っています。

はえぬきは実力あるお米なんですけども、ずっと安い値段で、あれはブランドになれなかったんで、安い値段ですつときておりましたけど、PRを始めたところ、少し値段が上がったみたいです。売れるということも聞いているところでもあります。

ですから、農協や県民の皆さんと一緒にあって、PRをしっかりしていくことが大事だと思っていますし、常に開発というもの、工業も農業も似ていて、常にチャレンジしなきゃいけないというか、イノベーション、技術革新ですね。そういう部分がとても大事だと思っています。そうやってきたからこそ山形県のさくらんぼとか、りんごとか、そういったものが今の地位を築いているんだと思いますし、常に先人が努力して、繋いでくれたものを守るといふのと、新しい技術ということなんです。常に芽出ししていくことも大事なことだと思っています。

今年の8月に、アメリカのコロラド州というところに行ってきましたんですが、山形県とコロラド州が姉妹県州を締結して今年30周年なんです。5年ごとに知事か副知事が行っているんですけども、大体イベントで終わっていたんですよ。私はイベントだけじゃだめだよって、山形のを売り込む、そして観光客を引っ張る。この2つやらないとだめだよって、向こうに渡る1週間ぐらい前に、デンバーの有名人気の店5店につや姫を送っておいたんです。

そして、向こう行ってトップセールスを、日本酒、お酒とか、ワインとかを持って行って、山形県には素晴らしい物がありますので使ってくださいと、スーパーや店、いろんな所でやりながら、観光誘客とかいろいろなところでやったんです。そのうちの日系人が経営している「TOKIO」という店に、オーナーのミスターハシモトのところへ8月7日の夕方に行ったところ、すぐにそのハシモトさんが、「すみません。」って、初対面の人に謝られるってなんのことかよく分からないので「どうしたんですか。」って聞いたら、「山形県さんが送ってくれたつや姫をもう使いました。なくなったわけじゃないんですけど。」と。常連の客が8月3日にやってきて、「おいしい御飯が食べたい。」と言われたから、「山形のつや姫があったなあ」と思って、それを炊いて出したところ「おいしい。」と言っておかわりをした。次の日も来て、「あの米を食べたい。」と言われたので、炊いて出したら、またおかわりをした。3日目、4日目は「またあの米で弁当作ってくれ。」と言われて、弁当を届けた。5日目はおにぎり4個の弁当を作って、おにぎりは小さめの、のり巻かない塩にぎり。そして中身はおかかなんだそうです。そしてたくあん何切れまで決まっている、こだわりの強いお客さんらしくて、それを届けた。その人、5日間つや姫の御飯を食べたお客さんが、今日3,000本目を打ったイチロー選手ですって。イチロー選手が山形県の農家の方が作ったつや姫を食べて打ったことを喜ばしく思って、このことを、山形県の皆さんに早く伝えたいと思ったところでした。

次の日にコロラド州のジョン・ヒッケンルーパー知事にそのことを言いまして、「この米で、この米を食べて、イチロー選手が3,000本目打ったんですよ」って言ったらすごく喜んで、みんなイチロー選手が大好きですから、とても喜んでいました。来年そのヒッケンルーパ

一知事が山形に来るそうです。

あと、コロラドの日系人協会のイベントに行って、そこで一緒にお昼御飯をピクニックみたいな感じで食べたんですけど、そこで御一緒した方々が、この間山形に来てくれました。奥さんとそれから同行者9名と一緒に山形県に来て観光して行きました。

その中のお一人は、「来年50人連れてくるから」なんて言ってくれまして、こちらが行けば来てくれる。そういうことで交流するというのがすごく大事だと思ったところです。

そして自分が自信を持ったら言うことなんです。言わないでいては伝わらないんですよ。いいところは来てみないと分からない。

全国から山形に来ていらっしゃっている、支店長クラスの人とお話したりするんですけど、外から見たら山形はいいところって分からなかった、来てみて初めて分かる。来てみると本当にいいところだ。景色はいい、食べ物はおいしくて温泉はすぐ近くにある。こんないいところはないよと。ただ道路が整っていないとか言われるんですけど、でも、みんな素晴らしいって。山形はいいところなんです。だからもっともっと宣伝しないと。それお金かけると大変なんです。イチロー選手は、お金かからなかったの、全然、まったく。そのミスターハシモトをつや姫大使に任命してきちゃったから、お米の宣伝をしてくれると思います。お金をかけて何千万円、何億円ってばんばん使うわけにはいかないの、とにかく私たち一人一人の力で、みんなでPRしていくということが大きな力になっていくと思っています。

米競争という話なんですけれども、米づくり、御飯として食べるものも大事だけど、米粉パンみたいなものを、もっともっと私は開発されるといいなと思っています。やっぱりちょっとパンの形をしたものも食べたいじゃないですか。ふっくらした米粉パンなんかね。ケーキに使うとか、そういうことをして、もっと日本人が作る日本の米を有効活用したほうがいいと思って、米粉の活用にも力を入れています。韓国からお嫁に来た人から聞いたんですが、韓国ではクリスマスケーキのスポンジのところは米粉なんだって聞いたことがあって、ああいうケーキに米粉を使ったら、お米をいっぱい使えるなと思いますので、そういったことで御紹介したときもあります。いろんなことをやりながら、お米を、同じ文化なんですから、私はいろいろ伝えていければいいなと思っていますところでございます。

<意見者>

イチロー選手が山形のお米を食べて大リーグで活躍しているということは前から知っていたので、私は米を売る時はそれを売りにしています。体づくりはやっぱりお米ということで、お米を食生活、食育にもPRしていきたいと考えているところです。知事の素晴らしいその笑顔で、世界にPRをよろしく願います。

<知事>

もんぺをはいて、割烹着を着て、山形の母ちゃんというスタイルで頑張っていきたいと思えます。

8 若者が元気になる施策について

<意見者>

今の若い人を見ていますと、どうも問題意識がない人が多いのかなと感じます。もし私

が知事になったら、1億円ぐらい出して活性化プランを募集して、それが10万円や20万円じゃだめだと思いますので、ドーンとやって、そういうプラン出した人はそのままその資金で頑張ってくださいというようなことをやっていただきたいと思います。昔は青年団とかいろいろ組織があったんですが、若い人の組織がだんだん減ってきていて、例えば消防団とか、商工会青年部とか、農協青年団、若妻会とかいろいろありました。今は、そういったところでの、若い人同士の話がなかなかされていないのが現実だと思います。

もう少し行政のほうからもその若い人を掘り出すように、もっと問題意識を持っていただいて、知事をバンバン批判するような若い人が出てきてほしいと思っております。

<知事>

大変元気のよい質問をいただきました。若者に元気出してもらいたいということで、若者向けの事業をやっております。利用範囲とかは決めずに、県内のそれぞれの地域で活動をしている、あるいは活動をしたいという若者のために、これは1件につき100万円以内になるんですけども、毎年募集して、その事業をやっていまして、若者応援をやっております。

あと、若い人たちといいますか、農業分野では、何千万円単位で、農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業というものを農業関係ではやっています。工業のほうに対しては、中小企業トータルサポート補助金という補助金を出して、工業も農業も、元気を出してやってもらいたいという思いで、そういう事業を展開しております。

若いうちから元気を出してもらうことが大事だと思っていまして、若者ミーティングみたいなことを、私がほうぼうに出向いてミーティングを行うといった支援といいますか、そういうこともやりたいと思っているところです。

財政が厳しくなっております、節減することも大事でありまして。亡くなった父が県職員をやっていたんです。高度経済成長期の中には、お金がいっぱいあった時期があったそうなんです。もう何に使ったらいいかわからなかったという父の話聞いて。中国に教員200人を連れていったとか。今はそんなことやったら、何やってんだ一つてなります。日本もそういう時期があったんです。洋上大学とかに参加した人が、そのあと町長になったり、市長になったり、結構活躍しているんですよ。そういったいろんな事業、若者が元気になるような人材育成事業ということを常に考えながら、やっていかなければいけないと思っているところでございます。

皆さんさんから見たら、もっともっとやれっていうことかも知れませんが、貴重な御意見ありがとうございます。

<町長>

我々が青年のときは、商工会青年部、青年会議所、農協青年団、役場の青年部、いろいろな団体が集まって、みんなドキドキでやった時代がございました。

また、我々の先輩方は、青年団で2泊か3日宿泊しながらそういう大会で連携を深めながら頑張っていたことがあったなあと記憶しております。残念ながら今お話ありましたように、どの団体も組織に元気がない。会員も少ないという中で、連携をとれる旗振り役がいなくなったというような状況でございます。

若い方々から地方政治に積極的に参加をしていただいて、そしてどしどし意見なり要望

なり言っていたかなければ、どうしても活力が薄れていくということを常に危惧しています。

各種団体の会合であいさつで、元気に、若者が考えている施策、そういうものをどんどん出していただきたい、予算があるものですから、1億円とまではいきませんが、対応するようにしていきますよということは常に話をしているところです。私も期待をしているところです。

9 知事の退職金について

<意見者>

知事の退職金についてお尋ねしますが、最初はもらうって言って、その後辞退しましたが、あれはどういう事情であつたのですか。

<知事>

私は、最初は一般県民から立候補しまして、当時、知事の退職金は1期4年やると3,800万円ぐらいだったと思いますが、4年で3,800万円は高いと思ひまして、一生でとかだったらまだ分かるんだけど、庶民感覚であのとき思ひまして、そのお金を県の施策に使ったほうがいいんじゃないかという思ひで、1期目は辞退しました。

2期目はというと、なんか全国見てみたら、1期目は辞退したけど2期目はもらうというような人が結構多かつたので、そこでちょっと私も揺れたというと大げさですが、それでは信念が無さ過ぎるんじゃないかという思ひもあつて、2期目も辞退しました。

<意見者>

3期目も辞退されるんですか。

<知事>

記者会見で何回も聞かれてお話ししたんですけども、今の流れの方向なのかなと思うんです。そういう方向なのかなと思つております。

10 再生可能エネルギーの推進による卒原発について

<意見者>

知事は、卒原発ということを言われていますが、現在の状況と、今後の方向性について教えていただければと思います。

<知事>

今日の朝、地震がありましたね。山形市も少し揺れましたが、大丈夫かなって思ひます。2日前も地震がありました。あの時は山形市も揺れました。

鳥取もありましたし、熊本もありました。いつ地震が、いつどこでどんな災害が起きるか分からない。日本は災害列島と言われているようです。損害保険会社のパンフレットで見たことあるんですが、世界地図の日本のところにすごい大きな丸印があるんですよ。それは自然災害がすごく多いという国際基準で、損保会社がマークしているんです。

そういう国ですので安全でないと言ひますか、原子力発電のようなものを作つていいの

かと、しかも、処分方法が確立していればいいんですが、その処分方法も確立していないということを知りましたし、それでいいのかと思ったことがきっかけです。

発端は、東日本大震災で、原子力発電は人間が作った文化、50基もあったって、全然自分からなかったし、どんどん運転していったのかと、大震災で思ったところです。

福島の人がたくさん避難されています。実際に見てお話を聞いて、悲惨な状況だったというのが分かりました。そういうことを見聞きした知事として、私がやらなければと思って、全国を見渡したときに、原発をやめたいと言っている人がもう一人いて、それが滋賀県知事の嘉田さんだったんです。

あと話している知事はおりませんでしたので、電話して、2人でいろいろ話をしていて、それで、脱原発だと過激で、すぐやめるって言うといろんな混乱きたしますので、将来的に少しずつ減らして行って、原発を卒業しましょうということで卒原発ということをお願いしたんです。

言うだけで、絵に描いた餅で終わってはいけないので、山形県のエネルギー戦略というものをつくりました。20年間で100万キロワット、原発1基分なんですけど、それを再生可能エネルギーで開発することとしています。県内全域を調べてみますと、太陽光もありますし、それから熱・風もある、水力もある、何よりもここから、皆さんから見える山ですね。山形県でありまして、その木を活用して、熱エネルギーにできると思いました。再生可能エネルギーというものに力を入れてきております。

風力は、まあいろんなことがあって、なかなかすぐにはやれない、しかも1基6億円とか7億円とかというものでありますし、すぐは進まないんですけども。調べてみたら山が荒廃しておりました。これはなんとかしなきゃいけないと思ったのが森林（モリ）ノミクスの発端なんですよ。

災害の話で言うと、村山広域水道というのが西川町にあるんですけども、その上流に寒河江ダムがあって、大量に雨が降ったときに、ダムの水がだと1日か2日で水が澄んでいくんですが、広域水道にいくまでの間に4本の川が流れ込んでいるんです。そのうちの1本を見たんですけど、現場主義ですので見に行ったら、なんと杉の木が倒れて、土砂の色に濁っているところがあって、ずっと濁りが直らなかったというのがありました。

山のほうで問題があると思ったんです。治山治水っていう言葉は、昔の人は偉いなと思うんですけど、水だけじゃないんだ、山も治めなきゃいけないと思いました。

二つ目の事案は吉野川です。2年続けて災害がありました。上流で土砂が崩れて、木も一緒に流れてきて、濁り、強かったですね。あれも山が荒れているからだと思いました。

それから三つ目になりますけれども、鶴岡市の温海という地域があります。そこで土砂崩れをしたところがありました。路線バスの経路になっているんですけど、通れなくなって、現場に向かった時に鶴岡市長に「たくさん雨降ったのか。」って聞いたら、「大したことなかったけど、崩れてきたんだ。」と言うんです。杉がどんどん大きくなっていて、大きくなっているんだけど、根肩といいますか、その根っこのところがすき間がなくて、根が伸びることができないんですね。それで重みに耐えかねて、ちょっとした雨でもう崩れてくるというような状況でありました。手入れもされていませんでした。その山林は不在地主でした。そういうのが県内のいろんなところで起きるだろうと思います。

全国的にも7割が森林でありまして、これは山形県だけの問題じゃないと思ったんです。それで私、日本の森を再生させる有志の会というのを作りました。最初は18道県だけだ

ったんですが、今41道県に増えました。山、森林整備を今やっておかないと、もう間に合わないということを、林野庁や農水省はじめいろんなところに申し上げております。

木を活用することで森林の再生もできますし、また、熱エネルギー、チップボイラー、ペレットストーブ、それから木質バイオマス発電ですね、もう鶴岡市では始まっています。村山市にもありますし、長井あたりでも考えがあるということを聞いています。酒田港のところにも企業誘致が進んでいると聞いています。あと、新庄市で集成材工場が稼働し始めたと聞いています。そんなふうにとんとんと木質バイオマス発電ということも進んでいる状況です。

木を使ったものは進んできています。あと、中小水力発電も進めていますが、水力が県内各地でもうちょっと余地がありますので、土地改良区のほうでも進めているところです。1度中小水力発電を始めますと、ずうっと売電ができて収入になるんです。何もやらないとそこには補助金も落ちない、交付金もない、収入もない。一方、始めたところは、補助金も入って、そこで工事といった仕事もできて、そしてそのあとの売電収入があるんです。だから何もしないところと、何かやったところでは天と地の差になっていきます。だからしっかりとやったほうがいいということはずっと言い続けてきています。

そんなことでエネルギー戦略を作ったときと、内容を、量的なものは見直さなければいけないところは出てきているんですけども、森林（モリ）ノミクスという、大きな1本の柱が見えてきたということで、地域の資源を生かすという取組みと、再生可能エネルギーの開発という関係をうまくして、しっかりと進んでいきたいと思っております。

11 赤十字活動について

<意見者>

とっても嬉しいことがあったものですから、知事に御報告したいと思えます。

高島町は、福祉の町づくりということもあったり、いきいきスポーツということもあったりするんですけども、新しい統合中学校で、赤十字奉仕団の青少年の加入が決まりました。嬉しいことです。

心の大切さ、命の大切さということで、赤十字に加入していただいたというのが嬉しいことと、あと高島高校でも今、加入しつつあります。

あと11月30日に、二つ目の赤十字の炊き出しの釜をいただけるということが決まりました。町長が贈呈だと思うんですけども、贈呈していただけるということで、その釜もどんどん活用していきます。

<知事>

大変、素晴らしい御報告をありがとうございます。町民の皆さんからも一緒に喜んでいただけることだと思ったところです。

赤十字の当事者というか、赤十字の支部長も私は兼任しておりますので、非常に喜ばしいと思えました。また高島中学でも赤十字奉仕団に加入していただけるということで、高校のほうも進んできたということでしたので、非常に高島町の取組みが進むということで大変ありがたく思います。

二つ目の釜、炊き出しの釜ですね。これは町長にお礼を申し上げます。町長ありがとうございます。大変素晴らしい御報告をありがとうございます。

以上